

やどかきり かわらばん 2008年7月

住まいるカレッジ伊勢原事務局
URL:ishii-koumuten.com



七夕(しちせき、たなばた)は、日本、中国、越南、朝鮮、台湾などにおける節供、節日の一つ。旧暦の7月7日の夜のことであるが、日本では明治改暦以降は7月7日又は月遅れの8月7日に多く七夕祭りが行われます。五節句の一つにも数えられています。古くは、「七夕」を「棚機(たなばた)」とも表記し、今日に至り、一般的に「七夕」を「たなばた」と発音するのはその名残です。元来、中国での行事であったものが奈良時代に伝わり、元からあった日本の棚織津女の伝説と合わさって生まれた言葉だそうです。

天の川の西岸に住む織姫は、機織りの名手。毎日機織りに勤しんで美しい布を織り上げ、父親である天帝を喜ばせておりました。娘の結婚相手を探していた天帝は、東岸に住む働き者の牛使い彦星を引き合わせました。二人はめでたく夫婦になりましたが、結婚してからというもの、あまりにも仲が良すぎて全く仕事をしようとしません。これに怒った天帝が、天の川を隔てて二人を離れ離れにしてしまいました。しかし、悲しみに明け暮れる二人を不憫に思った天帝は、仕事に励むことを条件に七夕の夜に限って二人が再会することを許します。こうして、七夕になると天の川を渡り、二人は年に一度の逢瀬をするようになったのです。

しかし7月7日に雨が降ると天の川の水かさが増し、織姫は渡ることができず彦星も彼女に会うことができません。その時は、二人を哀れんでどこからか無数のカササギがやってきて、天の川に自分の体で橋を架けてくれるということです。星の逢引であることから、七夕には星あい(星合い、星合)という別名があります。また、この日に降る雨は催涙雨とも呼ばれるとのこと。

恋物語から乞巧奠(きっこうでん)へ

このふたりの逢瀬を祝い、織姫にあやかって機織りの技が上手くなるように、ひいては手芸や手習いの上達を願って、巧みになるように乞う祭り(奠)と言う意味の「乞巧奠(きっこうでん)」が催されるようになり、日本でも宮中儀式として取り入れられるようになりました。ちなみに、旧暦の7月7日は今の8月中旬頃ですから、雨の心配も少なく星もきれいに見えたのです。

天の川

ギリシャ神話では、天の川は女神ヘラが眠っているあいだにゼウスが赤ん坊であったヘラクレスに飲ませていた母乳が、ヘラが目覚めて嫌っていたヘラクレスが乳を飲んでいたので驚いた際に流れ出したものとされます。英語での名称 Milky Way はこの神話にちなみます。

短冊

願い事はサトイモの夜露でしたためます。七夕には笹に願い事を書いた短冊(五色=青・赤・黄・白・黒)を飾りますが、本来はサトイモの葉に溜まった夜露を集めて墨をすり、その墨で文字を綴って手習い事の上達を願います。サトイモの葉は神から授かった天の水を受ける傘の役目をしていたと考えられているため、その水で墨をすると文字も上達するのです。

2ヶ月に1回	浴室		シャワーのそうじ。水につける。または、手針での。
	和室		たたみのお手入れ。きつく絞って素早く乾かして水気をとばすのが基本。
	手あか		ドアノブや、スイッチ回りの手アカそうじ。洗剤をうすめてぞうきんがけ。ドアノブは、金属磨きで磨くとピカピカに。
	窓ガラス、サッシ		洗剤をスプレーしてふきとる。レールの古ブラシなどでする。
			両側から一緒にぞうきんがけをする。
	たたき		ほうきではいた後、洗剤でぞうきんがけ



暮らしと住まいのアイデア

第1回二世帯住宅の考え方②

気をつけたい生活リズムの違い

プランニングにあたっては、世帯間のルールづくりから始めることがポイントです。身内だからと安易にプランを進めると、暮らし始めてからお互いに不満が募り、親子間のトラブルに発展することにもなりかねません。特に気をつけたいのが、生活のリズムの違いです。一般的に起床や就寝、食事の時間等が早い親世帯に対し、子ども世帯は遅くなりがちです。炊事やテレビ、ドアの開け閉め、深夜の入浴など音に対する配慮が必要になります。親世帯の寝室を玄関の近くに配置することや、周囲に子ども(孫)部屋や水回りを設置することも避けたいものです。電気代や水道代など公共料金の支払いもトラブルのもと。事前に分担の割合等を話し合っておくべきです。また、子ども(親世帯には孫)のしつけや教育に関しても、祖父母が孫に与える影響は決して小さくないため、子世帯は自分たちの方針を親世帯に理解してもらいましょう。「完全分離タイプ」(前号参照)ならば問題はありませんが、「共用タイプ」ではどの空間・機能を共用するかもプランのポイントです。それは両世帯が、どんな共同生活をしたいかで変わってきます。完全同居に近い形態にしたいなら、サニタリーやリビング、キッチン、玄関などほとんどが共有スペースになります。しかし、この場合でもときにはプライベートな時間を過ごせるよう、サブキッチンやホビールームを設置することを勧めます。

世帯間の交流とプライベートな時間のバランスをとりたいなら、玄関と浴室、サニタリーを共有とし、キッチンやリビングは別々に設けることとなります。上下階で世帯を分ける場合は、配管の効率や防音性を考えキッチンは垂直的な位置関係に配置するのが基本です。



完全分離型の落とし穴

お互いのプライバシーが守られる「完全分離タイプ」にも落とし穴はあります。生活空間が完全に分かれているため、とすれば両世帯間のコミュニケーションが希薄になってしまうことです。これでは二世帯住宅にした意味がありません。「完全分離タイプ」でも、共有の書斎や家事室などを設けることで、日常的に交流する場を設けたいものです。近年、土地価格が下がったとはいえ、都市部で新たに土地を購入するのはかなりの負担です。その点、親が提供した土地に子どもが二世帯住宅を建てローンを支払うなど、2つの財布で費用を賄えるのが二世帯住宅の魅力です。経済成長が見込めないこれからの時代、世帯ごとの費用が低く抑えられる二世帯住宅は賢い住まいづくりの選択肢の1つと言えます。※より詳しいことはぜひ、お気軽にご相談ください